

事務事業評価表 平成23年度

政策 明日につながる産業の振興  
 施策 商業の振興  
 基本事業 商店経営の充実

事業名 **商工業近代化資金融資事業**

[0070]

部名	経済部	事業開始年度	昭和54年度	実施計画事業認定	対象
課名	商工労働課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>江別市内の中小企業者</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>・長期かつ低利子の資金調達により コストの削減が図られることで経営の安定が期待できる。                  ・設備等の近代化で生産性の向上、経営基盤強化が図られる。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>商工業設備資金、共同事業資金、新技術開発振興資金、商店街振興資金、新規開業者・産学・産産連携事業資金の5つの資金がある。                  資金の利用を希望する市内中小企業者は、江別商工会議所中小企業相談所に融資の申込みをする。                  中小企業相談所は企業診断書を市に提出し、市は金融機関へ融資を斡旋する。                  金融機関は審査を行って中小企業者へ融資を実行する。                  市は金融機関融資実行後に融資金額の1/2(共同事業資金については1/2.5)を金融機関へ預託する。                  市は中小企業相談所へ企業診断手数料を支払う</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度当初
対象指標1	市内の事業所数 (非農林漁業)	所	3,155	3,155	3,155	3,155
対象指標2						
活動指標1	近代化資金新規融資金額	千円	376,970	208,150	236,580	258,460
活動指標2						
成果指標1	制度の利用により 経営基盤強化が図られた企業の割合	%	0.88	0.5	0.5	0.89
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	974,193	919,653	890,493	902,140
正職員人件費 (B)		千円	2,507	2,489	2,418	2,444
<b>総事業費 (A) + (B)</b>		<b>千円</b>	<b>976,700</b>	<b>922,142</b>	<b>892,911</b>	<b>904,584</b>

費用内訳	
22年度	役務費 520千円、貸付金 889,973千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	中小企業者等の発展に欠かせない事業の近代化、事業環境の整備、新規事業の開発等、経済情勢や需要動向の変化に対応するための投資に必要な資金を低利・長期で融資する。	事業を取り巻く環境変化	バブル経済の崩壊と金融機関の相次ぐ経営破綻などから中小企業の資金調達環境が大きく悪化した。ペイオフ解禁の実施に伴う預託金を取り巻く環境の変化し、緊急経済対策の一環として、緊急保証制度が創設された。その後同制度はセーフティネット保証に移行し、セーフティネット貸付制度がある北海道では、移行後も継続して制度が利用されている。
--------	---	-------------	--

## 22年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業  
 妥当である  
 妥当性が低い

理由・  
 根拠は？

商工業者の健全経営、健全育成は、市の経済政策の根幹をなすものである。資金調達の負担を軽減する長期かつ低利子の融資は、国、道とともに中小企業者の資金調達の円滑化にとって欠かせないメニューである。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい  
 貢献度ふつう  
 貢献度小さい  
 基礎的事務事業

理由・  
 根拠は？

商工業者が低利で長期資金を利用できることで、必ずしも財政基盤が強固でない中小企業者が、設備の近代化などを通じて経営の安定化を図ることができる。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている  
 どちらかといえばあがっている  
 あがらない

理由・  
 根拠は？

厳しい経済状況の中、需要は絶えることはないが、中小企業者が設備等の近代化を図ることによって経営の活性化に成果がある。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大  
 成果向上余地 中  
 成果向上余地 小 なし

理由・  
 根拠は？

対象を拡充することで成果向上余地がある。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む)

ある  
 ない

理由・  
 根拠は？

利用実績に応じて融資枠を設定している。需要があるので削減するのは困難である。